

FERIA-KIOTO'19当日の参加者の皆さん。



## 1点差の攻防を制した松浦秀勝／太田一彦組アルトが優勝

**近**畿地区におけるラリーのシリーズ戦は速さを競うSSラリーシリーズといかに正確に走るかを勝負とするアベレージラリーシリーズの2本立てとなっている。

アベレージシリーズは、昔ながらのアベレージラリーではあるが、それなりに根強い人気があるのも事実だ。2019年は6戦が用意されたが、結果的に、最終戦でチャンピオンが決定する形となった。

その最終戦は京都府京丹後市にある京都工芸繊維大学京丹後キャンパスをスタート、ゴールとする「FERIA-KIOTO'19」で、11月17日に開催された。コースは風光明媚な丹後半島の観光地である、『間人』や『碓高原』を通る。また、全日本ラリー選手権でSSとして使用された林道もルートに含まれ、気を抜けない設定となっていた。

チャンピオンの可能性があ

るのは、有川和正／藤島義孝組と児玉智比呂／進政範組の2クルー。その差は5ポイントで、僅かにシリーズリーダーの有川組が有利ではあるが、何が起るかわからないのがこのアベレージラリーである。今回は大ベテランの荒井重信／畠田浩一組が、2CPで標識を見落とした

### スピードより正確さを競うアベレージラリー

今回紹介しているJMRC近畿アベレージラリーシリーズは、JAFが定める「第1種アベレージラリー規定」に沿って行われる。第1種アベレージラリーでは、タイムトライアルを行うSS（スペシャルステージ）はなし。スタート前に渡されるルートブックに従って走行しながら、PC（パスコントロール＝指示速度変更地点）ごとに指示される速度に沿って走る。もちろん法定速度以内の速度だ。いかに正確に走ったかを計測するのがCP（チェックポイント）だが、CPの位置は事前に参加者には知らされないで、ここでクルーの力量が問われることになる。興味のある人はぜひ参加してみよう！



同減点ながら0減点の少なさで3位獲得の有川和正／藤島義孝組ブーン。





1. 4CPの減点が悔やまれる杉谷仁/佐柳陽組は8位。2. ベテランの荒井信重/塚田浩一組はまさかの大量減点で7位。3. 色鮮やかなフォルターで参戦の田中秀朗/川村康和組は10位。4. 後藤豊/岡本一也組も2CPで大きくロス。9位でゴール。5. 5区間で0減点と完璧なラリーを見せた松浦秀勝/太田一彦組が優勝を飾った。6. 児玉智比呂/進政範組はゼロ減点の差に泣き、4位。7. 松岡陽一/松浦順子組は最終CPの減点が響き、5位にとどまった。8. フィットCVTで参戦の杉本治/杉本直美組は6位。9. クローズドクラスは松野啓介/田上寛之組が優勝した。10. 松井弘成/信田由美組は僅か1点差に泣き、2位でゴール。

けで65点の減点を受け下位に沈んでしまったのだ。

しかし、有川組と児玉組は一進一退を繰り返し、前半の第1セッションを終わったところでトータル減点がともに5点と同減点。トップは松浦秀勝/太田一彦組の1点がダントツで、2番手には、4点で上がった松井弘成/信田由美組が付けていた。

昼食を取った後の第2セッションに入っても、この4台は大きなミスもなく順調にこなしていく。結果、松浦組が逃げ切りで優勝を果たした。ドライバーの松浦選手はシリーズ3位が確定し、「第1、2戦はそれぞれ良かったのです

が、それ以降まるで駄目で、何とかこの最終戦で挽回したかった。素晴らしいナビのおかげで優勝できて、年間表彰式も呼んでもらえるので嬉しいです」とニコリ。

ナビゲーターの太田選手は普段は別のドライバーと組んでいるが、「本気を出せばこんなものです。でも(いつも組んでいる)畑中さんには、『わしの時にちゃんとせよ!』って言われるでしょうね。本当に今回は、年1回の神が下りてきたラリーでした」と苦笑い。太田選手もシリーズ3位に入った。

2位には松井組が入った。最後は1点差まで迫っただけに、前半の減点が悔やまれるが、「今シーズン初表彰台です。まさか前に立てるとは思いませんでした。昨年の電通大で優勝して以来、ようやくここに届きました」と松井選手。ナビの信田選手は「銀色のメダルは初です。冗談で、『この色は、まだ持っていない』って言うたら、本当にその色



になってしまいました」とこちらも苦笑いしていた。

チャンピオン争いの2台はともに減点8で終わって、同減点でゴール。しかし、0減点の多い方が上位という規定から有川組が3位となり、逃げ切りでシリーズチャンピオンに輝いた。有川選手は「目標通り、3位です。児玉選手より上にいられて、良かったです。プレッシャーはあまりなくて、心の余裕が少しあったので落ち着いて走れました」と2016年以来2度目となるチャンピオンを喜んだ。

4位に敗れた児玉選手は「カーブミラーに泣かされました。今年は2勝したのですが、2年連続チャンピオンはきついですね。でもシリーズ2位は素直に喜びたいです」と笑顔だった。なお、クローズドクラスはこのラリーに年イチで出場している松野啓介/田上寛之組が、大差をつけての優勝。「年イチでも勝ててうれしいです。来年も頑張ります」と二人の気持ちは、早くも来季に向かっていようだった。



表彰台獲得の上位3クルーの皆さん。